

★水難事故防止

取組

ポイント1

児童等への指導事項を徹底する。

- 遊泳禁止の海や湖沼はもちろんのこと、雨後の増水した河川には絶対に近寄らない。特に、河川では、雨が上がっても、2～3日は流れが速くなっているので十分に注意する。
- 海岸における離岸流（波打ち際から沖合に向かってできる潮の流れで、幅10メートル前後の局所的にできる強い引き潮）の存在を知り、離岸流の有無等、事前に情報を得て、適切に遊泳する。
- ため池や貯水池等、立ち入り禁止・遊泳禁止箇所では、絶対に、泳いだり、魚釣りをしない。
- 河川上流域では、急な増水による水難事故の可能性もある。キャンプや水遊びの際には、気象状況や上流ダムの情報等に注意する。
- 河川の危険性については、児童等・保護者に十分に指導・啓発する。

- ・ 水面は穏やかでも、水中では流れが速く、流れが複雑である。
- ・ 河床は複雑で滑りやすく、また、急に深くなっている。
- ・ 深さ30センチ以上（児童等の膝の高さ程度）になると、転倒しやすい。
- ・ 水辺では、大人が目を離したすきに事故に遭うことが多い。離れた所で見守っていても、不意に溺れた時は姿を見失いがちであり、水辺では、大人がずっと一緒に行動することが必要である。